

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【CPC (シーピーシー)】

- 英 Clinico-pathological conference
- 義 Clinico-pathologic conference, Clinical pathology conference
- 略 CPC
- 類 臨床病理検討会

【用語解説】

病理診断が行われた疾病に対して、臨床診断・治療等に関与した臨床医や検討会参加者と病理診断を行った病理医が一堂に会して討論し、病理診断を基盤とした疾病理解と対処法を合理的に整理する検討会。得られた結果は参加者への教育的効果があり、当該施設の医療発展に寄与する。また、その積み重ねによって蓄積された情報は医学全体の発展に寄与する。

CPCは本来、病理解剖例を対象として行われる。そこでは、患者担当医が、患者の主訴、病歴、検査値、画像所見などを提示して当時の判断、対処内容を紹介する。司会者が参加者からの質問や担当医との討論を誘導して、問題点や疑問点あるいは臨床診断、鑑別診断などを整理する。その後に病理診断と所見が提示され、それらを理解した上で、対象疾病に対する合理的な臨床診断や対処法などが整理されるのが一般的である。希な疾病とともに通常経験する疾病も検討対象となる。一方、現在進行形の疾病に対して、病理診断を基に治療等の対処法を検討するために開催する検討会も臨床病理検討会であり、CPCと呼ばれるが、前者の病理解剖例と異なることを明確にするため、後者は外科病理CPCとか生検CPCと呼ばれることもある。

米国ボストン Harvard Medical Schoolにおいて、医学4年生であった Walter B. Cannon が法学2年生と共に1989年に開催した症例検討会が米国で最初のCPCと言われており、Cannonは、The New England Journal of Medicine (NEJM) の前身雑誌である the Boston Medical and Surgical Journal に前述検討会が医学教育に有用と1990年に報告した。現在、Massachusetts General Hospital で経験される症例を基に NEJM に発表されている CPC 報告は、医療界で最も注目される CPC 報告の一つである。

日本病理学会は、新医師臨床研修制度で行われている CPC 研修は、初期研修医にとって単に病理学の研修でなく、一人の人間の全身臓器に見られる病態を学ぶためのものと位置づけ、その経験が診療に有用と学会ホームページ上でコメントしている。

【参考文献】

日本病理学会ホームページ；<http://pathology.or.jp/senmoni/cpc2.html>

NEJM-CPC Case Studies；<https://www.isabelhealthcare.com/validation/client-case-studies/NEJM>

Rachel Hajar. The Clinicopathologic Conference. Heart Views. 2015；16：170-173.

(国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター 院長 (病理専門医) 谷山 清己)

本誌200pに記載